



医学部研究者のご参加をお待ちしております。

参加無料

対象：慶應/JSR研究者

JKiCセミナー 臨床検体の利用#5

# 新しい創薬としての核酸医薬

## 転写因子PRDM14を標的とした抗がん核酸医薬



慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター  
特任准教授  
谷口 博昭 先生

PRDM14は腫瘍細胞特異的に発現し、治療抵抗性の原因の一つであるがん幹細胞性と関連性が深いことが分かりました。PRDM14は細胞核内に発現し、抗体・低分子による開発が難しいと考えられたため、核酸医薬でのアプローチを考えました。対象疾患として同分子の過剰発現を認める乳がん・すい臓がんを選定しました。

核酸医薬品の開発上の問題を学際的研究により克服し、治験に用いる核酸医薬品の剤型を決定しました。この核酸医薬品により動物実験モデルで腫瘍成長の抑止と遠隔転移の抑制が認められました。非臨床試験を完了し、治験薬の製剤化を進め年度内のFirst in humanの治験を目指しています。

2019. 4. 10 水

18:00～19:30 JKiC1階会議室

主催：JSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター  
共催：慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

お問合せ先：JKiC産学医連携部門 Mail: [jkiC-info@adst.keio.ac.jp](mailto:jkiC-info@adst.keio.ac.jp)